

“今週の国際宇宙ステーション(ISS)”

- ★最初のISS構成要素打上げから1901日経過しました
- ★第8次長期滞在クルーのISS滞在は106日経過しました
- ★ISS動向

第8次長期滞在クルーのマイケル・フォールとアレクサンダー・カレリ両宇宙飛行士は、先週末のプログレス補給船(13P)到着に備えて、不要品をISSにドッキング中のプログレス補給船(12P)に詰め込み、ISSからの分離、廃棄の準備を行いました。この補給船は1月28日に、ISSから分離し、大気圏で燃え尽きました。

この作業以外にも、科学実験と通常のISSの保全作業を引き続き行っています。さらにフォール宇宙飛行士は、EarthKAMの準備を行いました。(EarthKAMについては、トピックスをご参照下さい。)
また、両宇宙飛行士は、1月27日、NFL(The National Football League)のコミッショナーPaul Tagliabue氏と宇宙からの眺めやフットボールについて交信しました。フォール宇宙飛行士は、「フットボールこそアメリカの象徴、地球上で最も大きなスポーツイベントです。」とメッセージを送りました。また、翌日には、2月1日(日)に行われるスーパーボウルの開会イベント映像の収録のためジョンソン宇宙センター(JSC)を訪れていたロックバンドのエアロスミスのメンバーと交信を行いました。エアロスミスのメンバーは、フォール宇宙飛行士に対して、「私たちは、あなた方がそこで行っていることを支援し、尊敬します。とても素晴らしいことです。」と話しました。

★プログレス補給船(13P)、ISSにドッキング

ロシア航空宇宙局(Rosaviakosmos)は、プログレス補給船をソユーズロケットにより、日本時間1月29日20時58分、バイコヌール宇宙基地(カザフスタン共和国)から打ち上げ、その2日後の1月31日午後10時13分には、ISSとのドッキングに成功しました。

この補給船には、燃料、予備の部品や食料品と共にJAXAの高品質タンパク質結晶生成プロジェクトの第3回目のタンパク質試料が搭載されました。さらには、JAXAが参加する欧州宇宙機関(ESA)とロシア航空宇宙局の共同プロジェクトにより宇宙での技術検証を行うための宇宙放射線線量計も搭載されています。また、空気漏れの原因となった排気ホースの交換品も含まれています。



おもちゃのフットボールを投げるフォール宇宙飛行士



JSCの管制センターに集まったエアロスミスのメンバー



プログレス補給船(13P)からの映像

“トピックス”

★コロンビア号事故1周年の追悼式典開催

2004年2月1日で、スペースシャトル「コロンビア号」(STS-107)が地球への帰還直前に空中分解した事故から1年が経ちました。NASAは、1月30日にジョンソン宇宙センター(JSC)で追悼式典を開催しました。約1,000人の職員が出席するなか、コロンビア号の帰還予定時刻だった米国東部時間午前9時16分、7回の鐘の音に合わせて亡くなった7人の名前が読み上げられ、JSCのジェファーソン・ハウエル所長がスペースシャトルの飛行再開を誓いました。

また、2月2日には、NASAオキーフ長官が、アーリントン国立墓地を訪れ、クルーの墓碑に献花し、弔いの言葉を贈りました。

この式典に先立ち、先週、NASAは、これまでに発生した3件の有人宇宙船での死亡事故が、この時期1週間以内に集中していることから(※)、毎年1月最終木曜日をクルーの偉業を称える追悼の日とすることを発表しました。

(※)アポロ1号事故:1967.01.27、チャレンジャー号事故:1986.01.28、コロンビア号事故:2003.02.01



コロンビア号のクルー



クルーへの弔いの言葉を贈るNASAオキーフ長官



開幕イベントの様相

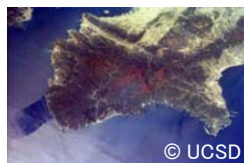
★STS-114クルー、第38回スーパーボウル開会イベントへ

2月1日、リライアント・スタジアム(テキサス州ヒューストン)にて、第38回NFLスーパーボウルが開催されました。この開会イベントでは、スペースシャトル「コロンビア号」(STS-107)事故1周年に際してコロンビア号の搭乗員へ追悼の言葉が贈られました。

また、この開会イベントには、次回スペースシャトルフライトとなる、STS-114のクルーからも登場。野口聡一宇宙飛行士らクルー達は、大観衆から大声援を浴びました。

★ISSでのEarthKAMに日本の高校生も参加

EarthKAMとは、インターネットを通じて特定の地域の写真撮影要求を出し、その写真から地理学、地質学、植物学、地球科学を学ぶための学生実験です。毛利宇宙飛行士が搭乗したSTS-99(2000.02)では、シャトルで行われたこの実験に、初めて日本の学校4校が参加しました。2000年8月からはISSでこの実験が開始されています。2004年1月27日から1月31日に行われた実験は、ISSでのEarthKAMとしては第10期目を数えました。ISSでのEarthKAMには、これまでに日本から、関西創価学園(大阪府交野市)と茗溪学園高等学校(茨城県つくば市)が参加しています。関西創価学園は、STS-99で初参加以来、ISS EarthKAMとしては初回から連続10回、通算連続11回の参加となります。



茗溪学園によるEarthKAM取得写真の一例

問い合わせ先: 宇宙航空研究開発機構 宇宙ステーション・きぼう広報・情報センター TEL: 029-868-3074

ISS・きぼうホームページ <http://iss.sfo.jaxa.jp/> Eメール kibo-koho@jaxa.jp

※「ISS・きぼうウィークリーニュース」に掲載された記事を転載する場合、本ウィークリーニュースから転載した旨を記述ください。